



日本学術会議公開シンポジウム

地球環境変化研究の転換期における 人間的側面研究の強化と推進に向けて

平成29年7月3日(月) 13時00分～17時00分

主催 日本学術会議地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人的側面(HD)分科会

後援 日本地球惑星科学連合、地理学連携機構

場所 日本学術会議講堂(東京都港区六本木7-22-34, 地下鉄千代田線乃木坂駅青山霊園出口)

申込 事前の申込は不要です。会場に直接おいでください。参加費は無料です。

IGBP(地球圏-生物圏国際協同研究計画)やIHDP(地球環境変化の人的側面研究計画)などの傘下で地球環境変化に関する様々な課題に取り組んできたコアプロジェクトの多くは、これまでの実績を活かしつつ、新しい研究プラットフォームであるFuture Earthの下で研究を継続し発展させる道を探っています。しかし学際性や超学際性を重視するFuture Earthの下で新しい道を確立し推進することは簡単ではありません。特に人文社会科学的側面からの研究の強化は、研究のテーマによっては容易ではありません。そのような現状を踏まえ、これまでわが国で後れていた人的側面からの研究を大幅に拡充し、バランスのとれた地球環境変化研究の発展を実現するにはどうしたらよいかを、Future Earth傘下のコアプロジェクトと短・中期的な研究ネットワークであるKAN(Knowledge-Action Networks, 知識と行動ネットワーク)、及びSDGs(Sustainable Development Goals, 持続可能な開発目標)における取り組みを参考として検討します。

プログラム

総合司会：岡本耕平(日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院環境学研究科教授)

13:00～13:10 開会挨拶、趣旨説明

水見山幸夫(日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授)

13:10～13:30 SDGs(持続可能な開発目標)とFuture Earthとの連携

蟹江憲史(日本学術会議特任連携会員、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授)

13:30～13:50 SDGs(持続可能な開発目標)への農学研究の課題と展望

櫻井武司(日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

13:50～14:10 KLASICA-社会変革のための学習プロジェクトの現状と展望

阿部健一(日本学術会議特任連携会員、総合地球環境学研究所教授)

14:10～14:30 Health KAN-健康研究ネットワークの現状と展望

春日文子(日本学術会議連携会員、Future Earth グローバルハブディレクター)

14:30～14:45 休憩

14:45～15:05 Water-Energy-Food NEXUS KAN-水・エネルギー・食料研究ネットワークの現状と展望

谷口真人(日本学術会議特任連携会員、総合地球環境学研究所副所長)

15:05～15:25 Ocean KAN-海洋研究ネットワークの現状と展望

植松光夫(日本学術会議特任連携会員、東京大学大気海洋研究所教授)

15:25～15:45 Urban KAN, Finance & Economics KAN, GCP間の都市研究連携の現状と展望

山形与志樹(日本学術会議特任連携会員、国立環境研究所地球環境研究センター主席研究員)

15:45～16:05 統合知を創出するための包括概念と境界概念-人類世とフューチャーアース

石井敦(東北大学東北アジア研究センター准教授)

16:05～16:55 ディスカッション

司会：春山成子(日本学術会議連携会員、三重大学大学院生物資源学研究科教授)

16:55～17:00 閉会挨拶

石川義孝(日本学術会議第一部会員、京都大学大学院文学研究科教授)

問い合わせ先：水見山幸夫(北海道教育大学名誉教授)

E-mail: himiyamay@kkd.biglobe.ne.jp

(背景写真：東京電力福島第一原子力発電所付近)